

医療情報支援システム、 医療情報支援方法及び 医療情報支援プログラム

佐賀大学 医学部 救急医学講座

教授 阪本 雄一郎

佐賀大学 医学部附属病院

高度救命救急センター

助教 山田クリス孝介

従来技術とその問題点

既に特許化されているものには、自動診断や生体信号モニタ等があるが、

- ✓ 専門診療科支援を目的としたものではない
 - ✓ 患者の時間経過に伴う状態の変化に関する情報を遅延なく捉え、患者の重症化を防ぐ機能は有していない
 - ✓ 専門診療科以外の診療科の注意を喚起するような情報を提供する機能は有していない
 - ✓ 診療を支援することを目的としたものではない
- 等の問題があり、広く利用されるまでには至っていない。

新技術の特徴・従来技術との比較

診療支援

リスク管理

- ・ 検査結果等の重要な情報が長時間未確認となるリスクを管理できる。
- ・ 次の医療行為を行うまで以前の医療行為の内容が放置されるリスクを回避できる。
- ・ 医療者同士の相互補完を支援し、重篤度の高い患者のリスクを回避できる。
- ・ 特別な装置は不要であり、日常診療で得られるデータを利用する。

想定される用途

- ・ 大規模病院や集中治療室等
 - 専門医はじめ人員が多い大規模病院では、規模の小さな病院や診療所等に比べ、「誰かが見ているだろう」という心理が働きやすい。
 - 集中治療室等、昼夜を問わず24時間365日、管理されている病棟では医療従事者の精神的負担が大きく、見逃しリスクが高い。
- ・ 地域包括ケア
 - 地域を1つの病院と見立てた利用が可能。
 - 病院をインターネット等をつなげることで地域で安心・安全な医療を提供。

実用化に向けた課題

- ・ 現在、システムのモックアップは開発済み。しかし、院内ネットワークへの連結し、実データを取り込むまでには至っていない。
- ・ 今後、佐賀大学医学部附属病院内の救急集中治療室で試行的に運用することを検討中（実施体制は整備済み）。
- ・ 実用化に向けて、試行運用を通じてデータを収集し、システムの実証を行う必要がある。

企業への期待

- ・ 未解決の院内ネットワークへの連結は、院内システムベンダー等との調整が必要。
- ・ 本システムには人工知能が搭載されているため、システムのモックアップを開発した企業との連携が望ましい。
- ・ 既に医療分野で事業を展開している企業だけでなく、医療分野への参画を希望する企業も参加を期待している。

本技術に関する知的財産権

- 発明の名称 : 医療情報支援システム、
医療情報支援方法及び医療
情報支援プログラム
- 出願番号 : 特願2014-169726
- 出願人 : 国立大学法人佐賀大学
- 発明者 : 阪本雄一郎、山田クリス孝介

お問い合わせ先

国立大学法人佐賀大学

産学・地域連携機構

知財戦略コーディネーター 田中雄二

TEL 0952-28-8151

FAX 0952-28-8186

E-mail tlo@mail.admin.saga-u.ac.jp